

平成 30 年度 地域ケアプラザ事業報告書

■ 施設名

横浜市二ツ橋地域ケアプラザ

■ 事業報告

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との共通部分

1 全事業共通

地域の現状と課題について

各地区では連合自治会、地区社会福祉協議会（以下地区社協という）、民生委員児童委員協議会（以下、民児協という）をはじめ多くの方々による地域福祉活動が活発に行われました。また各地区での第3期地域福祉保健計画では連合自治会、地区社協、民児協が一体となり三位一体の活動が推進できました。

【三ツ境地区】

地域サロン、シニアクラブのほか屋外を利用した健康づくり活動も活発に行われ、「三ツ境地区住みよいまちづくり委員会」では、地域の見守り体制について検討を行いました。自治会単位での見守り体制構築に向けて、要援護者の把握を目的に「見守り・支え合いカード」や緊急時に対応ができる「緊急情報カード」、保管容器の継続配布のほか、防災グッズ「三ツ境ネットくん」の配布を通じて見守り活動を行ってきました。また同委員会では地域福祉保健計画の推進母体となり、推進にあたって地域課題の共有や課題の解決方法について具体的に検討されており、今年度は三ツ境サポーターズが発足し、1年が経ちました。地域活動の部、趣味活動の部の他、生活支援の部では事務局を設け、地区の困りごとを地域で解決を目指すべく、しくみづくりが進みました。地区内に19自治会がそれぞれ活動していますが、自治会運営についても人材不足が課題となっています。

【宮沢地区】

地区の会館を利用したサロンやシニアクラブ等の地域活動が活発に行われています。一方、地区内の会館の拠点が小さく、運動を行う団体や活動が限られており、介護予防の機会が少ない状況にあります。高齢者の見守り活動として、あんしん部会では、高齢者の見守りの名簿の作成や防災グッズ「あんしん君」の希望者に対して配布や補充等を通じた訪問活動が実施できました。また、「宮沢まちづくり委員会」では、公園の愛称を分かりやすく示した看板の設置が進められ、誰もが住みやすいまちづくりへの認識が進みました。高齢者の居場所作りで開始したアクティブ講座では地域住民の主体的な活動に発展し、サロン「みやざわ倶楽部」が立ち上がりました。

【瀬谷第四地区】

瀬谷第四地区では、一部本会が運営する二ツ橋第二地域ケアプラザの地域交流エリアと重複しているため、地域住民が混乱しないよう連携を図り、最新の地域動向の共有に努めました。高齢者を対象とした地域サロン「にこにこサロン」や「歌声ひろば」、「カフェ・すずらん」、自治会、シニアクラブの活動が活発に行われているため、各サロンの後方支援を行いました。二ツ橋中部自治会「見守り活動運営委員会」には、二ツ橋第二地域ケアプラザ・区社協とともに出席し、身近な高齢者の見守りが地域に浸透していくよう協力支援を継続しました。

(1) 相談（高齢者・子ども・障害者分野等の情報提供）

○今年度、地域ケアプラザの案内カードを作成して、5職種の役割紹介や相談窓口の内容を記載して、個別相談や事業、地域でのサロンや地域関係者の集まりで周知と配布を徹底しました。それによって、地域からの相談件数も増加傾向となっております。

○三ツ境、宮沢、瀬谷第四地区の民児協に毎回、包括職員が参加していき、顔の見える関係作りに努めました。個別ケースの相談は定例会以外にも、同行訪問していき、ケースの重症化予防につなげました。

○自立支援協と連携し地域の災害研修を実施しました。障害余暇支援「スタイルF」を通して障害に関わる団体と連携し課題・情報共有しました。

○子育て応援ネットに事務局として参加し、子育て世代の課題・解決に向けて情報共有しました。

(2) 各事業の連携

○広報紙は号外1回、他奇数月で発行し、地域のサロンや会議に出向くときの情報ツールとして活用しています。

○月に1回の地域ケアカンファのほか5職種会議を開催し、事業の実施状況や協力体制、地域や活動団体の支援状況の確認や個別支援の検討等を行いました。

○担当地域の高齢者サロンや昼食会等に5職種が輪番で参加し、各自が地域から個別、個別から地域という視点を持って、参加者や担い手さんとの関係づくりに努めました。参加後、地区支援記録を作成し、職員間でプログラムの内容や情報提供した内容・配布物等の共有を行い、継続的な関わりを持てるように努めました。

○三ツ境・宮沢地区の地域活動カレンダーを発行しました。自治会回覧の他、民児協に参加した際に民生委員に配布し、民生委員からの案内による身近な地域に高齢者が参加できるように体制づくりに努めました。

○地域包括支援センター、生活支援コーディネーターと連携し、介護予防ボランティア元気塾「虹の架け橋」と二ツ橋公園体操元気会の介護予防ボランティアに対して、ボランティアスキルアップ講座を開催する等、ボランティア支援を行いました。

○所内や区社協と地域アセスメントシート、地域支援計画書を振り返りました。地域課題「閉じこもりがちな方の健康づくり、顔見知りになれる場の立ち上げ」を優先取組とし、宮沢地区の睦ひばり会館で、体操と手芸のサロン「みやざわ倶楽部」立ち上げの支援をしました。

(3) 職員体制・育成、公正・中立性の確保

○常勤職員は公募と内部登用（非常勤職員から嘱託職員、常勤職員へ）による採用を行い、資格要件等の職員配置基準を満たした配置に努めました。

○法人による「人材育成計画」、並びに施設独自の研修計画を作成し、階層別、職種別に研修を実施しました。

○日常業務において、OJT（実務を通じての教育・訓練）を実施し、人材を育成するとともに、外部の研修にも積極的に参加し、法人職員、地域ケアプラザ職員としての資質や専門性の向上に努めました。

○昼窓当番制を導入し、切れ間ない相談支援体制を作りました。

○研修参加後は報告書を作成し、各部門の定例会議にて研修内容の伝達研修を実施し、情報の共有化を図り、資質の向上に努めました。

○ケアプラザ全体研修として年3回行いました。

4月 個人情報研修 11月 自衛研修、人権研修 LGBTについて
12月 虐待研修、感染症予防研修 3月 二ツ橋地域ケアプラザ事業計画

○朝のミーティング後、包括3職種で相談ケースの情報共有を行い、必要な対応がいつでも出来るようにしました。また、夕礼を行い、夜間の職員への情報伝達を行い、必要な対応が出来るようにしました。

(4) 地域福祉保健のネットワーク構築

○各地区の地区社協や連合自治会、民児協等の関連団体や関係機関と理事会や定例会議で情報交換を行うほか、定期的な会合等にも積極的に参加しました。会議の記録を残し、ケアプラザ内で回覧し、情報共有を行ないました。

○「三ツ境地区住みよいまちづくり推進委員会」では、各種団体や関係機関と協働して地域の課題解決に努めました。今年度は第3期地域福祉保健計画の3年目として地域活動に参加できる環境づくりを検討し、4月に始動しました「三ツ境サポーターズ」の立ち上げの支援を行いました。活動の継続的支援の中で必要と思われる個人情報保護等の研修を提案し、実施しました。

○「三ツ境地区住みよいまちづくり推進委員会」で子供の居場所についての検討員会に参加し、必要な情報提供を行い、第1回目の開催支援をしました。

○三ツ境小学校地域防災拠点のネットワークに参加し、関係機関や関係団体と連携を図り、秋季防災訓練では福祉避難所に名称が変わったことを周知しました。

○二ツ橋中部自治会の「見守り活動運営委員会」では、「あいさつ運動」や「見守り活動」の住民への周知を継続する為に、班長会を利用し、活動内容の現状を報告する場を設けています。二ツ橋第二地域ケアプラザ、瀬谷区社協と協働し、運営支援を行いました。

○七夕灯籠祭り実行委員会では、今年度も東日本大震災の復興祈願と熊本震災の復興祈願の祭りを開催しました。関係機関とともに、障害者や高齢者や子どもをすべて含めた地域活性化イベントを開催し、CPではヨーヨーつりの出店、ステージ進行を担当しました。地域住民、原中学校、関係機関が協働し、瀬谷区の名物のお祭りとして認知度も高まっています。

○「宮沢まちづくり推進委員会」では、町内会館すべてに高齢者サロンを開催し、外出がしにくい高齢者が身近な場所に集い見守ることができるよう、睦・ひばり会館を会場に事業を展開しました。その結果、新たなサロン『みやざわ倶楽部』が立ち上がりました。

○子育て応援ネットワークでは、二ツ橋・二ツ橋第二ブロック会議の活性化に努め、関係機関と子育て支援者や主任児童委員との垣根を超えた情報交換を行い、地域の子育て中の親子のサポートに努めました。子育てサポートシステムの普及にも協力しました。今年度は他団体の活動を知るといふことで見学会と交流に重きを置き活動しました。

○子育て応援ネットワーク開催「きて！みて！しって！遊ぼう」イベントに実行委員会として参加し、総合受付を担当しました。

○せやまんまるねっと（瀬谷区自立支援協議会）に参加し、地域活動ホームや作業所等と情報交換および情報収集に努めました。

三ツ境住みよいまちづくり委員会では、障害者啓発勉強会の年2回開催調整を行いました。

○地区社協・社会福祉施設分科会に参加し意見交換や交流を行いました。

(5) 区行政との協働

- 地区支援会議、地区支援チーム会議に参加し、ケアプラザ職員が参加した地域の福祉保健情報等、地区の状況の共有を図りました。
- 三ツ境地区住みよいまちづくり推進委員会において、「子どもの居場所検討委員会」のメンバーとして、他地区の見学等を行い、第1回書初め大会開催の支援を行いました。
- 高齢者を中心に宮沢地区民児協主催のカローリング交流会のカローリングの指導を行い、健康づくりとして普及啓発しました。
- 第3期地域福祉保健計画の推進に向けて地区懇談会、シンポジウムに参加しました。
- 瀬谷区からだまるごと健康フェアに5ヶケアプラザ共催で出店し多世代に向けて健康づくりの紹介・普及に努めました。
- 子育て支援事業「きて！みて！して！あそぼう」に実行委員会として参加し、総合受付を担当しました。
- 瀬谷区内保育園と共催で「親子できゅーっ！とスキンシップ」を実施しました。

2 地域活動交流事業

(1) 自主企画事業

- 各事業でアンケートを実施し、参加者のニーズを調べ、地域の方が集える講座をケアプラザのみでなく、地域の会場で開催しました。
- 多世代のボランティアの発掘と場の提供に努め、子育てイベントでの学生ボランティア募集、障害理解のボランティア講座、慰問ボランティア希望の方向けのトーンチャイム講座等、初めてのボランティア活動につながる支援を行いました。福祉教育については夏休みの小学生向け福祉教育で視覚障害者への理解を深めるため、疑似体験や点字体験の他、聴覚障害の当事者と交流しました。南瀬谷小学校、東野中学校の高齢者疑似体験を区社協と共に実施し、福祉教育サポーター養成のための講座を区社協と共催で実施しました。
- 多世代交流と若い世代の地域交流を目的に大人ミガキ講座でフラワーアレンジメント講座を実施しました。
- 区内ケアプラザでシニアボランティアポイントの講座を実施し、身近な場所でポイントカードを取得し、活動に繋げるように他ケアプラザの開催に協力、指導しました。
- 区内地域交流と連携し、地域の5か所で音の駅コンサートを開催しました。瀬谷区50周年プレイベントとしてのべ600人以上の参加者が集いました。
- 南瀬谷小学校5年生、南瀬谷中学校2年生中心、南瀬谷小学校のPTA、三ツ境小学校の職員向けにキャラバンメイトと協力して認知症理解講座を多世代に向けて開催しました。
- ケアプラザより遠い会館である宮沢の睦・ひばり会館で介護予防の講座を開催しました。新しい集いの場を開拓し、宮沢の高齢者施設はなことばで体力測定会を開催し、多くの方の外出の場を提供するとともに、施設の協力体制を確認しました。
- 子育て世代の孤立をふせぐため、ほしの子☆サロンを開催し、夏休みは小学生から大学生のボランティアと他世代交流もかねてちびっこルームを開催しました。また、子育て世代向け栄養講座をヘルスメイトの協力を得て開催し、子育て世代の健康を考え、子育て世代の悩みや求めるニーズを調べることができました。
- 障害者余暇支援「スタイルF」の定期的開催を始めました。支援学校や養護学校、就労支援センター、後見的支援室、区の高齢・障害支援課等、障害関係の団体と連携し、対象となる当事者への広報を行い、15名の参加申し込みがあり、毎回10名ほどの参加があります。新たにボランティアを募集し、15名ほどのボランティアが障害について学び参加しています。

(2) 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

- 最新の空き状況がわかるよう掲示板を玄関先に設置し、常に正確な情報を発信しました。
- 利用団体向けにアンケートを実施しました。
- 広報紙等で貸館利用案内を紹介し、Ⅰ団体が3団体、Ⅱ団体が1団体の会場利用が増えました。
- 各団体より困りごとについて適宜ヒヤリングをし、悩み解決の支援を行いました。

(3) ボランティアの育成及びコーディネート

- 夏休みに小学生福祉講座を開催し、手話を学ぶことで聴覚障害者への理解を深め福祉を身近に感じてもらうことが出来ました。
- 65歳以上の高齢者向けに開催の要望が多くある「よこはまシニアボランティア講習会」を瀬谷区内のケアプラザで実施する支援を行いました。
- 初めてのボランティア講座を3回開催しました。障害理解のボランティア講座、慰問ボラ希望者向け「トーンチャイム講座」、福祉教育サポーター養成講座を開催しました。
- 学生向けボランティアを募集することで興味のある学生のボランティアを発掘し福祉教育に努めました。
- 区民活動センターや区社協のボランティアセンターと協力し活動希望のボランティアを積極的に受け入れました（楽友会、ほしの子☆サロン、デイサービス）
- ボランティア交流会では、日頃のボランティア同士の交流ができないことから、珈琲の美味しい淹れ方講座を開催し、普段話す機会のないボランティア同士が交流する場を提供しました。また、今まで夕方からの開催のため参加出来なかった方を考慮し、午後の時間に実施したため主婦層のボランティアの参加が増え、多くのご意見を聞くことができました。
- 男のボランティア「となり組」の事務局では庭木剪定や草取り、生活支援に関わるボランティアコーディネートをおこない、団体施設内外活動数 1,031 件（平成 30 年 12 月まで）となりました。

(4) 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

- 広報紙を年7回発行し、福祉保健活動団体の活動紹介の記事を掲載し、広く周知することができました。またホームページに掲載し、情報提供に努めました。
- 貸館利用団体の情報提供や地域交流のため利用者団体懇談会を開催しました。また、広報誌で貸館のご案内をし、問い合わせが新規で5件ありました。
- 貸館利用団体懇談会を実施しました。貸館利用団体の活動内容を把握し、互いの活動を情報提供することで交流と助け合いの継続的關係が生まれ、福祉保健活動につながりました。

3 生活支援体制整備事業

(1) 事業実施体制

○他職種、他部門と連携を進め、地域資源の情報収集を行い、地域活動カレンダーの発行を行い、各地区の情報提供を行いました。また、ケアプラザ広報紙「かがやき」に生活支援コーディネーターコラムを掲載し、企業との連携や地域資源の創出の取組の紹介等を情報発信しました。

○瀬谷区生活支援コーディネーター連絡会で管理する Facebook で情報発信に努めました。

○地区診断や地域アセスメントに基づき、地域支援計画書を5職種で策定し、関係機関と協働し、中間期に振り返りを行いながらケアプラザ全体で地域支援に関わりました。

今年度はケアプラザへ足を運ぶのが難しい宮沢の住民からの要望に応え、宮沢で介護予防事業や体力測定会、担い手発掘のための「宮沢アクティブ講座」を開催し、今まで高齢者サロンのなかった睦ひばり会館で『みやざわ倶楽部』立ち上げ支援をしました。

体育部文化部で構成される当サロンを、包括、地位交流とともに活動内容を提案しました。

○昨年たちあげました「ニツ橋体操元気会」の途中経過を確認するお楽しみ会や体操の再確認の講習会等を開催し、活動の継続的支援をしました。

○既存の通いの場（シニアクラブ、サロン、昼食会）で地域の要望に応じた出前講座の地域包括支援センターと連携して6回（平成29年12月現在）行いました。講話・クイズ等を通じて生活支援体制整備事業の目的である地域のささえあいの必要性を地域住民に伝えました。

(2) 地域アセスメント（ニーズ・資源の把握・分析）

○地域活動・サービスデータベースシステム Ayamu の入力を行い、地域ケアプラザの資源情報について、データベースを活用し、地域の方へ情報提供しました。

○65歳以上の高齢者向けに開催の要望が多くある「よこはまシニアボランティア講習会」の開催について今まで当ケアプラザ以外のケアプラザでの実施が最近なかったため、他ケアプラザで実施するにあたりアドバイスや情報提供、実施支援を行いました。

○高齢者理解を勧めたいとの南瀬谷小学校からの相談を受けて、下瀬谷地域ケアプラザ、区社協と共催し、高齢者疑似体験や高齢者理解の講座を開催しました。

○三ツ境地区住みよいまちづくり推進委員会の支援を通じて、三ツ境サポーターの立ち上げ支援を行いました。また、生活支援サポート等で個人情報保護・コミュニケーションについての研修を開催する等、継続的な活動支援を行いました。

○三ツ境・宮沢地区の地域活動カレンダーを四半期毎に作成し、発行しました。地域から自治会回覧の希望の声が必要性を認められ、回覧することができました。また、合わせてインフォーマルサービスの情報提供に活用できました。

○宮沢では高齢者の居場所づくりを課題としており、外出の場を増やすため、ケアプラザ事業を宮沢地区の会場で開催し、宮沢の新しい担い手の発掘と活動支援を目的に「宮沢アクティブ講座」を開催し、最終回の話し合いで新規高齢者サロン「みやざわ倶楽部」の立ち上げ支援を行いました。

○瀬谷区生活支援コーディネーター連絡会で行った「介護予防認定対象者アンケート」によりケアプラザエリアの要支援者のサービス利用等現状把握することができました。

(3) 連携・協議の場

○ケアプラザの担当する地域では各地区の地域福祉保健計画を推進する母体（①三ツ境地区住みよいまちづくり推進員会②宮沢まちづくり推進員会）があるため、各地区の地域福祉保健計画で掲げられている項目なかで重なる介護予防・生活支援に関わる活動の推進を行いました。

宮沢地区の居場所作りには5職種で連携して地域の目標とする居場所作りの支援を行いました。

三ツ境地区の子どもの居場所づくり検討委員会では目指す方向性を共に考え検討しました。

○庭木剪定や日常生活の簡単な生活支援を行う団体である男のボランティア「となり組」の事務局を地域活動交流とともに行い、区内全域にわたる高齢世帯等のボランティアコーディネートをを行いました。今年度は、個人情報保護法の研修を開催するとともに、事務書類についても見直し、個人情報保護を視野に新しい体制づくりを一緒に考えました。

○瀬谷第4地区を対象とした生活支援を行う団体である「女性のボランティア」が地域住民に周知され活動の促進につながるよう地域包括支援センターとともに定例会に参加し、周知を行いました。

○「二ツ橋中部自治会見守り検討委員会」では、委員を中心としてきめ細かな見守り体制づくりを行うための支援を行いました。

(4) より広域の地域課題の解決に向けた取組

○区役所や区社協と担当地区の短期、長期目標を定め、個別、団体、地域等に丁寧にアプローチをし、地区診断、地域支援計画に沿った実践を行いました。

○毎月行われる生活支援コーディネーター連絡会で日常生活圏域レベルの取組について共有し、日常生活圏域で取り組めない課題（サービスB申請・相談）に関しては1層コーディネーターや区役所と共有し、解決に向けた取り組みを行いました。

4 地域包括支援センター運営事業

(1) 総合相談支援業務

①地域におけるネットワークの構築

○各地区の民生委員児童委員協議会、地区社会福祉協議会、自治会等の定例会議等へ包括・地域活動交流・生活支援コーディネーターで役割分担し出席する事を継続して行い、関係作りの強化と、それにより相談しやすい関係作りを行いました。地域や気になる方の情報を共有し、状況に応じて迅速に対応をしてきました。

○民生主任児童委員協議会では、昨昨年度から始めた第4地区の定例会への出席の継続を始め、担当地域全体の民生委員との関係づくりがより深まるようにし、更に女性ボランティアの定例会への出席の継続により、利用者の情報共有や活動への支援を行いました。

○医療機関情報一覧の更新に向けて、医師会との調整を行い、区内主マネと共に情報一覧の更新作業を行いました。区域の全医療機関への訪問を実施しました。

特に医師会へ未加入の医療機関へヒヤリングを行い、関係作りを行うことと包括支援センターの周知を行いました。その結果、ケースの相談の情報共有を円滑に行いやすくなりました。

○エリア内の医療機関への訪問を区職員と協力して、実施し、認知症の方の現状把握や地域包括支援センターの周知を継続しました。

○地域の薬局や電気店等に出向き、地域包括支援センターの周知と地域包括カードの配布を行いました。

②実態把握

- 区や瀬谷区ケアマネットと連携し、訪問介護事業所一覧情報を更新し、更に、区と区内5包括主任CMとで協力し、通所介護事業所一覧情報を新規作成しました。
- 毎月開催される各地区民児協の定例会には必ず出席し、地域で気になる方等の情報共有、その後の継続的な対応、支援について協力して行いました。
- また、サービス利用に繋がらない方の中で、継続的な状況把握が必要な方への継続した定期連絡や随時訪問による状況把握また、地域のサロン等で声かけを実施し、支援関係が維持できるよう取り組みました。
- 更に、日頃より民生委員からの相談について、状況確認のための訪問や関係者間への情報伝達、支援方法の検討等、役割分担をしておの対応を継続しました。
- 地域でのサロンや自治会イベントに出向き、出前講座や健康講座を実施、高齢者の実態把握を年間通じて継続することに積極的に努めました。

③総合相談支援

- 初期相談については、輪番で窓口当番を担い、職種を問わず適切な対応ができるようにしました。
- 特に家族関係の課題や虐待の疑い等による支援の困難な事例については、区や事業者との連携を密接に行いました。
- 簡易な相談に対しては簡易相談票を活用し簡易相談台帳としてファイルを整備しています。
- また、包括職員のみならず、他職員が相談受付をしても継続して円滑に対応できるよう、電子データの相談台帳を活用しています。
- 地域のサロンや会食会には三職種とコーディネーターが輪番で参加しケアプラザ、包括支援センターの事業紹介等を行いました。
- さらに地域のサロンや会食会において、出前講座に積極的に協力をを行い、地域包括支援センターとその活動の地域への周知を継続的行いました。

(2) 権利擁護業務

①成年後見制度の活用促進・消費者被害の防止

- 前年度同様に「終活セミナー」と銘打って、3回連続講座で、専門家を講師として招き、個別相談会も実施し、実際に不安や悩みを抱えている地域住民への対応を行いました。また講座の開催を通し、専門家との連携から関係性の構築ができ、個別ケースの相談等をタイムリーに相談して、利用者さんの不利益につながらないように、対応することができるようになりました。
- 連絡会において瀬谷区、各地域包括支援センターと定期的な情報交換を行い、権利擁護関連事例の共有と支援方針の検討を行いました。
- 自己選択・決定で自分の権利を守ることをテーマに瀬谷区版エンディングノートを用いて、地域ケアプラザで1回、地域サロンで1回、公開講座で1回、書き方講座を開催しました。特に地域サロンでは対象者を若い世代(50代~)に拡大して行い、参加者の意見をもとに次年度の開催を検討したいと考えております。
- 個別の成年後見制度に関する相談に対し、情報提供と区役所とケース共有を行って、継続的な対応を行いました。
- 成年後見サポートネット連絡会に参画し、専門職や行政等と事例検討を行いました。

②高齢者虐待への対応

○介護者のつどい「いっぷくの会」、エンディングノートの書き方講座において、権利擁護についての講座や内容を盛り込む中で、高齢者虐待に関する知識の啓発を図りました。

○虐待が疑われる事例については、関係者、医療機関、介護保険事業所等との定期的な状況把握と、区役所への情報共有、随時対応に努めました。

○総合相談においても、介護者への負担、虐待防止という視点からの支援にも心がけました。包括間で、虐待の早期発見リストの情報共有を改めて行いました。また早期発見リストが全職員で確認できるようにファイリングして保管場所を周知しました。

○施設の全体研修で、高齢者虐待の研修を行い、施設を利用する利用者や家族に対する観察の感度を高めてもらうことと、行政や地域包括支援センター部門との連携をしやすいように周知を行いました。

③認知症

○エリア内の認知症キャラバンメイト連絡会を定期的開催し、サポーター養成講座の企画運営の後方支援を行いました。

○南瀬谷小学校5年生、南瀬谷中学校2年生中心に、低年齢の頃から認知症について学ぶ機会を持てるよう後方支援しました。また、南瀬谷小学校のPTA、三ツ境小学校の職員向けにキャラバンメイトと協力して認知症理解講座開催の後方支援を行いました。

○エリア内施設職員に依頼のあった、瀬谷消防署職員向けのサポーター養成講座開催について、企画運営の後方支援を行うと同時に、地域包括支援センターの周知も実施しました。

○地域住民向けのオープンな認知症サポーター養成講座を開催しました。認知症の説明については施設協力医により、より内容が深められるように工夫し、多くの地域の方に参加をしてもらう事ができました。また、近隣保育園の協力のもと、開催場所を近隣保育園の一室とし、多世代交流の機会作りの一助となるよう工夫しました。

○認知症医療連携会議に参画し、医療機関や行政等と事業等の検討を行いました。

○見守りキーホルダー実行委員会に参加し、必要性を学びプラザの職員に伝えました。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

①地域住民、関係機関等との連携推進支援

○毎月区内5か所の地域包括支援センターと区役所高齢者支援担当とで作成するケアマネカレンダーにより、区域でのケアマネジャーに役立つ情報をわかりやすく提供しました。また、不定期の事業所訪問やケアプラザへの来所時にニーズの把握を行いました。

○区域の医療機関情報について、医師会との調整を行い、医療情報一覧を更新し、発行しました。

○地域サロンやシニアクラブへの出前講座にて、介護保険制度についての説明会を開催しました。また、写真入りの5職種カードを作成し地域包括支援センターの機能や相談先としての周知を行いました。

○ケアマネジャーと民生委員との交流会を継続して実施し、お互いの活動内容や日々の活動で遭遇しやすい事例を通して、連携方法について、検討しました。継続的に交流会を開催することにより、顔の見える関係づくりが進むようにしました。

○2か月毎に開催される地域密着型サービスの運営推進会議へ地域包括支援センター職員が出席し、施設職員や自治会長、民生委員等と共に情報交換を行いました。

○地域で実施している『見守り推進委員会』定例会に区社協、第二地域ケアプラザと協働で参加し、活動支援を行いました。見守り活動の中で支援の苦慮するケースについての情報共有を実施しました。また、『住みよいまちづくり委員会』に参加し、活動支援や活動の中で支援に苦慮するケースについての情報共有を実施しました。

②医療・介護の連携推進支援

○区域の地域ケア会議に事務局として、参加し企画や運営を行い、ケアマネジャーやサービス事業所、医療機関との連携を図り、区域の課題についての共有を行いました。

○ケアマネット、在宅医療連携室、5包括で共催し、ケアマネジャーと医療機関の交流会を開催しました。毎年、継続して行う事で顔の見える関係作りが深まるようにしました。

○包括エリア内の医療機関へのヒヤリングを昨年に続き、包括職員が実施し、地域包括支援センターの周知や医療機関における認知症の方の現状の把握を実施しました。

また、区域で作成した医療連携のためのツールの活用状況の聞き取りをしました。

（関係機関間の連絡ノート、物忘れシート等の活用について）ヒヤリングにより得た医療機関からのニーズをケアマネと医療相談室の交流会にて、伝える場を作り、医療と介護の連携が進むように支援しました。

○医療相談室とケアマネジャーの交流会を区内包括、ケアマネットと共催にて開催、相談しやすい関係作りを行いました。また、日頃から、医療連携室からの相談に丁寧に対応し、退院支援や居宅介護支援事業への引き継ぎを円滑に行いました。

○医療情報の一覧の更新に向けて、在宅医療連携拠点との連携により、包括エリアごとの個別に医療機関訪問の実施と情報収集により一覧の更新を行いました。

③ケアマネジャー支援

○来館時の直接対応や電話にてケアマネジャーの相談に対応をしています。日頃から相談しやすい関係作りの継続により、相談を持ち掛けられる場が増えてきました。困難事例等については、包括内で共有し、必要に応じて、区職員とのケアカンファにて共有、支援方針を検討しました。

○ケアマネジャーのスキルアップや関係作りを目的としたケアマネサロンを毎月開催し、協力医の協力のもと医療に関する知識向上を行いました。継続実施する事により、気軽に医療についての相談ができるようにしました。また、多職種連携の一環として『生活保護制度と生活困窮者自立支援制度』について生活支援課に協力頂き、ケアマネジャーの知識向上を行いました。

○支援困難ケースについて、状況を確認し継続して行いました。

○二ツ橋第二地域ケアプラザと共催で、居宅の主任ケアマネジャーを中心に事例検討会（事例研究）を開催。事例についての振り返りと支援方針について確認をしました。

○介護予防関係書類の返却やケアマネカレンダー、開催事業についての周知を行うために事業所訪問を行いました。委託先のケアマネジャーに対し、ケアプラン作成や法令遵守のための助言を行いました。

○区内の地域包括支援センター、区役所、区社協と協力し、新任ケアマネジャー向けの研修を開催し、業務に就くうえで必要となる行政サービスを始めとした様々な制度について、各機関の役割についての学習を深める場となるようにしました。（6月）

また、日々の業務での悩みごと等の共有も含め、振り返りが出来る機会を持ちました。（2月）

○区内5か所の地域包括支援センター職員が輪番にて、ケアマネット幹事会に出席し、情報交換や研修開催の支援や協力を行いました。

○介護予防ケアマネジメントプランを作成にあたり、介護予防、自立支援に基づくことの必要性を理解し、適切なプラン作成ができるよう、プラン作成のための研修を行いました。

○ケアマネジャーから寄せられた相談内容について区域の主任ケアマネジャーへ情報提供し、業務が円滑に行われるよう計りました。

(4) 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築・地域ケア会議

- 包括レベルの地域ケア会議の開催に向けて、5職種で地域課題や地域の特徴の共有を行い、地域づくりに繋がる支援をテーマにして開催しました。(2月)
- 個別ケースの地域ケア会議では、家族関係に問題のあるケースについて地域の視点と多職種からの視点でどのような支援ができるか検討しました。(11月)
また、地域の特徴の共有に繋がるケースを選定し、地域づくりや住民の意識向上に繋がる支援ができるよう、個別ケース地域ケア会議を開催しました。(3月)
- ケアマネジャーと民生委員と関係づくりの構築や継続の為に交流会の開催をし、お互いの活動内容や役割の確認を行いました。(2月)

(5) 介護予防ケアマネジメント(指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業)

介護予防ケアマネジメント(指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業)

- 前年度に引き続き、ケアプランの作成にあたり、目標指向型の介護予防ケアマネジメントの実施ができるよう、ケアマネジャー対象に介護予防ケアマネジメント研修の実施を他包括と共催して行いました。
- 委託しているケースのサービス担当者会議では、利用者の適切なプラン作成が行われているかの確認をしました。また、相談しやすい関係作りを行いました。
- 委託しているケースで、介護保険サービスの利用とは別に地域のインフォーマルサービスの提案を行い、介護保険サービスと同様にインフォーマルサービスも選択できるような助言を適宜行いました。
- 介護予防ケアマネジメントプランを作成にあたり、介護予防、自立支援に基づく事の必要性を理解し、適切なプラン作成ができるよう、プラン作成の為に研修を行いました。

(6) 一般介護予防事業

一般介護予防事業

- 介護予防の運動リーダーである『虹の架け橋』定例会に毎月参加し、情報共有と提供を行い支援しました。年2回体力測定会を共催で実施して、新規の参加者が5名ほど増えました。
- G o g o健康づくり教室を2コース開催して、アンケートの集計をもとに、新たにロコモに特化した事業を展開し、継続的支援にしていくことを今後検討しています。
- 初めて利用する施設(はなことば瀬谷)と自治会館(睦ひばり会館)で事業を開催し、新たなニーズの把握に努めました。
- 宮沢地区の保健活動推進員と介護予防等に関する講座を3回開催し、地域のニーズ把握を行いました。
- 三ツ境地区の保健活動推進員と共催で認知症予防について講座を1回開催し、認知症予防の重要性について、地域住民に普及啓発活動を行いました。
- 生活支援コーディネーター、区役所と共催で、二ツ橋公園体操元気会と虹の架け橋のボランティアを対象にスキルアップ講座を開催して、ボランティア支援を行いました。参加者は、それを契機にボランティア活動の幅を広げています。
- 元気づくりステーション『カローリングっど』と『かようの会』に、区役所と連携して、理学療法士や地域体操指導者とともに、体力維持と向上の機会の提供とボランティア支援を行いました。

5 その他

施設の老朽化に伴い小破修繕が多い年度でした。
それに加え、長寿命化の LED 工事やエレベーター改修工事等、貸館利用者や近隣住民、デイサービス利用者へのご理解を得る為の説明書類や対応を丁寧に行いました。

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との相違部分

施設の適正な管理について

(1) 施設の維持管理について

○開所 27 年目になり施設内の老朽化が目立ちますが、利用される方が安全に利用できるよう、修繕等は速やかに対応し、安全で清潔な施設運営に努めました。
○設備の日常的な保守・点検については、故障等より利用者の皆様に迷惑が掛からないように、消防法の規程等に基づいた委託事業者による定期的な整備・点検を行いました。
○設備管理・一般清掃、自家用電気工作物、エレベーター、自動ドア、空調機、中央管制装置制御機器、機械警備、消防設備等の点検保守を行いました。
○小破修繕については、修繕事前協議書を区役所に提出し迅速に修繕を行いました。大規模な修繕については、区に相談し対応しました。
○日常清掃や定期清掃により、施設を清潔に保持しました。
○施設内の通路をはじめ各部屋、トイレ、洗面所等、誰もが使いやすいよう整理整頓を励行しました。また、施設内案内図、施設の機能やサービス内容を見やすく、分かりやすく表示しました。
○エレベーター修繕は無事故で終了し、地域住民のご理解も得られ、利用者の方々への影響を最小限に努めることができました。

(2) 効率的な運営への取組について

○日常的な連絡事項や情報共有のため、毎月行われている職員ミーティング等で、専門職間の連携を図ることができました。
○複数の指定管理施設を受託している利点を生かし、引き続き、事務経費の一括入札等により、経費を節減し、プラザエコ担当を任命し、光熱費を昨年度より削減することができました。
○指定管理者として地域ケアプラザの役割を認識し、限られた予算内で適正な運営を行うため、経費の削減、資源の有効活用に心がけました。
○予算管理に基づく効率的な経営を行い、月次の収支状況について、常勤職員会議にて執行状況を確認、共有し、優先順位を考慮した予算執行に努めました。
○省エネルギー対策、物品のリサイクル等を職員全員で意識を持つよう努めました。
○長寿命化による全館 LED を実施しました。

(3) 苦情受付体制について

- 苦情受付担当者(常勤職員)及び実務責任者(所長)を置き、施設内に分かりやすく掲示しました。
- 利用者個人を尊重し、利用者の権利を擁護する仕組みとして、苦情解決を位置づけサービスや事業の質の向上につなげました。
- 横浜市社会福祉協議会「苦情相談対応マニュアル」に沿って苦情受付の体制を整えました。受付担当者→実務責任者(所長)→所管部長→苦情解決推進チーム→総括責任者という流れで苦情の解決にあたりました。また、本会では苦情解決調整委員(第三者委員)として、法律・福祉・人権の各分野の専門家に依頼して、上記の仕組みで解決できなかった場合の対応や助言をもらいながら円滑な解決とサービスの改善に努めました。
- 苦情への対応については、利用者個人の尊厳を尊重し利用者の権利を擁護する仕組みとして苦情解決規則を位置づけ、本会の苦情解決のしくみにより対応しました。また、受付けた苦情についてはその大小に関わらず真摯に受け止め、迅速な対応を常に心掛けるとともに、サービスや事業の質の向上につなげました。

(4) 緊急時(防犯・防災・その他)の体制及び対応について

- 緊急対応マニュアルに基づき、休日を含む全日対応できるよう役割分担や緊急連絡網を作成し、的確かつ迅速に対応しました。
- 火災発生時において、法人本部・区役所・医療機関等の連携を確保しています。災害時の電話不通を考慮して、災害用および緊急電話(直通、災害時優先携帯電話)を保有しています。
- 災害時に有効かつ迅速に支援できるよう業務継続計画(BCP)を見直しました。
- 福祉避難所応急備蓄物資の整備に基づく補充と更新を行いました。
- 災害が発生したときに備え、災害時要援護者が地域のどこに住んでいるのかを把握し、「要援護者名簿」を更新しました。
- 所長を防火管理者とし、消防避難訓練の実施はもとより、毎日、施設内の避難通路の安全確認と外まわりの点検を行いました。
- 年2回、消火・通報・避難誘導の訓練を実施しました。また、AEDを使用した蘇生法の講習を実施しました。

(5) 事故防止への取組について

- 当法人が運営する施設の事故発生状況の詳細なデータをまとめ、毎月の館長・所長会議で情報共有を行いました。その結果を受けて、毎月実施する職員ミーティングにおいて事故の分析、再発防止に向けた検討・対応を行い、同様の事故が発生しないよう注意を行い、防止策の検討を行いました。
- 業務改善会議を各部門の職員で編成し、毎月定期的に会議を開催し、ヒヤリハット報告に基づき内容の把握と再発防止に向け業務改善を行い、全職員へ周知し、事故予防に努めました。
- 事故予防に対する意識向上のため、毎日始業前チェックを行い、職員間で事故予防についての意識付けを行いました。
- 事故が発生した場合でも速やかに対処できるように、整備している「事故・ヒヤリハット判断基準及び災害等対応マニュアル」を更新するとともに、その度に職員研修を実施しました。

(6) 個人情報保護の体制及び取組について

- 個人情報の取扱いについて、年度初めの職員全体会議において個人情報研修を実施して意識の向上に努めました。
- 個人情報の取扱いについては、毎朝の朝礼時に注意喚起を行うほか、定期的に個人情報の取扱いについて自己チェックを実施しました。
- 守秘義務については、明文化したものを全職員はもとより、ボランティア等の事業に携わる者すべてに配付・説明して、個人情報に対する意識の統一を図りました。
- 個人情報が含まれるケースファイルデータ保存の媒体等は施錠管理を徹底し、必要時以外の外部への持ち出しを禁止しました。また、机上放置も厳禁とし、介護保険事業の契約書等の外部持ち出しが不可欠な個人情報の携行にあたっては、「個人情報郵送簿」「持ち出し簿」を整備し、送付時や訪問時には必ず職員間でダブルチェックを徹底しました。ダブルチェックについては全職員が意識を高く持って取り組むことができました。

(7) 情報公開への取組について

- 「決算書」、「個人情報取扱業務概要説明書」、「その他情報公開用資料」、「施設概要」、「サービス内容等広報資料」等を閲覧しやすい場所に設置し、常に最新の情報を提供しました。
- 情報公開について請求があった場合には、法人の「保有する情報の公開に関する規程」に基づいて対応しました。
- 保有している文書（電磁的記録を含む）を対象とし、文書に個人のプライバシー情報や法令等の規制で公にすることができない情報が含まれる場合など、開示できないものを明確にしました。
- 公開に際しては個人の不利益にならないこと、責任者の判断を得ること等を徹底しました。

(8) 人権啓発への取組について

- 年4回の職員全体会議において人権研修や伝達研修を実施して意識の向上に努めました。内容については、横浜市人権施策基本方針指針に基づき職員全員に実施しました。
- 法人による「人材育成計画」、並びに施設独自の研修計画を作成し、人権啓発研修を実施しました。

(9) 環境等への配慮及び取組について

- ゴミの少量化（横浜3R夢プラン）、資源の有効活用、地球温暖化対応等、全職員で環境配慮の取り組みを行いました。
ゴミの排出においては、適切に分別を行い、大切な資源としてリサイクルに取り組みました。
- 節電に心がけ、プラザエコ担当を配置し未使用の部屋の消灯や室内温度（夏は28度、冬は20度）の適宜設定を行いました。
- 職員の外出時は自動車の利用は極力避け、徒歩や自転車、公共交通機関を利用して化石燃料の節約に努めました。
- 雨水タンクの設置により、雨水を利用することで水道水の使用を抑制し、地球温暖化防止に貢献しました。

介護保険事業

● 指定介護予防支援事業・第1号介護予防支援事業

《職員体制》

管理者	保健師等	1名	(常勤兼務)
	主任ケアマネジャー	1名	(常勤兼務)
	社会福祉士	1名	(常勤兼務)
	介護支援専門員	2名	(非常勤専従1名・兼務1名)

《目標に対する成果等》

- 1 利用者自身の強みや役割意識等を考慮して、意欲的に取り組める目標設定やプラン作成を行い、自立した生活が維持できるような支援に取り組みました。
- 2 委託契約している居宅介護支援事業所に対して、介護保険制度の改正に伴う変更点や介護保険外のインフォーマルサービス等を含めた対象者の変化に応じたプラン作成ができるよう助言等を行い、支援しました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

実費負担はありません

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- 1 利用者主体のプランを作成します。
- 2 福祉マップのインフォーマルサービス情報もプランに反映し、自助・互助・共助の視点を取り入れるようにしました。
- 3 地域のサロンや老人会、ケアプラザの自主事業等、高齢者向けの事業に参加を促す等、インフォーマルサービスの活用を進めていきました。

《利用者実績》

※単位は省略してください。

【単位・人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
190	191	192	192	192	193
10月	11月	12月	1月	2月	3月
189	192	190	191	191	183

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

管理者 1名（常勤）
介護支援専門員 7名（常勤1名、非常勤6名）
（常勤職員1名は管理者兼務）

《目標に対する成果等》

- 1 地域に根ざしたインフォーマルサービスを有効活用し、利用者の意思を尊重し心身の状況や環境等に応じて、可能な限り住み慣れた地域で安心して在宅生活を送れるように個々のニーズに添った居宅サービス計画を作成しました。
- 2 関係行政機関、地域の保健・医療・福祉サービス、ボランティア団体等との綿密な連携を図り、多様な事業者から総合的かつ効率的にサービスが提供されるように調整し、常に利用者の立場で公正中立な居宅サービス計画を作成しました。
- 3 様々な情報を提供できるように努め、研修に参加し業務体制を整備しました。
- 4 個人情報保護及び法令順守に努め、日々の業務に取り組みました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

実費負担はありません

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- 1 職員の持つ知識を講座等の場を通じて地域のために役立てました。
- 2 利用者の抱えている課題から地域の課題を把握し、行政や地域包括支援センター等とともに解決に向けて取り組みました。
- 3 利用者がそこに暮らす住民の一人であることを大切にし、利用者やご家族が地域住民とのつながりの中で豊かな在宅生活を送れることに結びつくように、地域の行事や活動にも目を向けてまいりました。

《利用者実績》

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
187	192	197	199	202	202
10月	11月	12月	1月	2月	3月
201	197	206	200	205	204

● 通所介護

《提供するサービス内容》

- (1) 生活指導(相談援助等) (2) 機能訓練(日常動作訓練) (3) 介護サービス
(4) 健康状態の確認 (5) 送迎 (6) 給食 (7) 入浴

《実費負担(徴収する項目ごとに記載)》

+

《事業実施日数》 週 7 日

《提供時間》 10:15~15:20

《職員体制》

管理者 1名(常勤)、生活相談員 4名(常勤2名、非常勤2名)
看護師(機能訓練指導員) 5名(非常勤)、介助員 13名(非常勤)
運転員 3名(非常勤)

《目標に対する成果等》

- 利用者一人ひとりを大切にし、その人らしく生き活きと健やかに過ごせるようサービスを提供いたしました。
- 家族に対しても、介護疲れの軽減をはじめ、介護技術や介護上の相談ができる、安心で身近な窓口となるよう心がけました。
- 地域に開かれた施設のデイサービスとして、各部門や他機関との協力・連携を図り、地域で生活する方々の課題解決に取り組みました。
また、職員一人ひとりが専門職として地域社会の資源となるように努めました。
- デイサービスが利用者の在宅生活を支える担い手の1つとなるよう、身体・精神・環境等、あらゆる面における状況の的確な把握に努めました。「専門職としての知識」と「思いやり」をもって、利用者が必要としていることは何かを正しく理解し受け止め、実現に向けて行動いたしました。

《その他(特徴的な取組、PR等)》

- 利用者に対して、定期的にデイサービスへの意向を確認し、状況に合わせて柔軟に対応いたしました。可能性を大切に「できる」が継続できるように、あるいは「今までよりもできた」につなげられるよう支援しました。いつでも気軽に相談してもらえるように信頼関係を大切にしました。
- ボランティア活動を応援し、その活躍の場として利用してもらうとともに、学校等の関係団体との交流を図り、福祉活動のきっかけづくりを行いました。
- 職員の持つ知識や技術を、講座等を通して地域のために役立てました。ご利用者が抱えている課題から地域の課題を把握し、行政や地域包括支援センター等とともに解決に向けて取り組みました。
- 専門職として状況の理解、課題への対応力を養うため、知識や技術の向上に励みました。
- 利用者、職員にかかわらず、デイサービスを通じてかかわる皆が笑顔でともに歩むことができる人づくり・関係づくり・雰囲気づくりに努め、情熱をもって前向きに取り組みました。

《利用者実績(延べ人数)》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
572	646	634	675	688	635
10月	11月	12月	1月	2月	3月
673	698	638	649	510	565

● 介護予防通所介護・第1号通所事業

《提供するサービス内容》(1) 生活指導(相談援助等) (2) 機能訓練(日常動作訓練)
(3) 介護サービス (4) 健康状態の確認 (5) 送迎 (6) 給食 (7) 入浴

《実費負担(徴収する項目ごとに記載)》

	1割負担	2割負担	3割負担
事業対象者、要支援1	1,766円	3,531円	5,297円
要支援2(週1回程度)	1,766円	3,531円	5,297円
事業対象者、要支援2	3,621円	7,241円	10,861円
食費負担	750円	750円	750円

加算額

(運動機能向上加算) 242円 483円 724円

(体制強化加算Ⅱ)

事業対象者、要支援1	26円	52円	78円
要支援2(週1回程度)	26円	52円	78円
事業対象者、要支援2	52円	103円	155円

(介護職員処遇改善Ⅰ) 所定単位数に1000分の59を乗じた単位数を加算

《事業実施日数》 週 7 日

《提供時間》 10:15~15:20

《職員体制》

管理者 1名(常勤)
生活相談員 4名(常勤2名、非常勤2名)
看護師(機能訓練指導員) 5名(非常勤)
介助員 13名(非常勤)
運転員 3名(非常勤)

《目標に対する成果等》

- 利用者一人ひとりを大切にし、健やかに過ごせるようサービスを提供しました。
- 家族に対しても、介護疲れの軽減をはじめ、介護上の相談ができる、身近な窓口となるよう心がけました。
- 地域に開かれた施設のデイサービスとして、他機関との協力・連携を図りました。

《その他(特徴的な取組、PR等)》

- 利用者に対して、定期的にデイサービスへの意向を確認し、状況に合わせて柔軟に対応をしました。気軽に相談してもらえよう信頼関係を大切にいたしました。
- ボランティア活動を応援し、学校等の関係団体との交流を図り、福祉活動のきっかけ作りを行いました。
- 職員の持つ知識や技術を、講座等を通して地域のために役立てました。区役所や地域包括支援センター等とともに解決に向けて取り組みました。

《利用者実績(契約者数)》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
15	18	16	16	16	16
10月	11月	12月	1月	2月	3月
15	14	15	17	16	18

平成30年度「横浜市ニッ構地域ケアプラザ」
収支予算書及び報告書(一般会計)<地域活動>

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	17,422,760		17,422,760	19,717,218	△ 2,294,458	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	
指定管理料充当 事業			0	38,100	△ 38,100	
自主事業収入			0	0	0	
雑入	0		0	45,166	△ 45,166	
印刷代	0		0	45,166	△ 45,166	
自動販売機手数料			0	0	0	
駐車場利用料金収入			0	0	0	
その他(指定管理料充当)	0		0	0	0	
その他(施設使用料相当額 法人負担分)	1,977,500		1,977,500		1,977,500	
その他(提案時控除 法人負担分)	0		0	0	0	
収入合計	19,400,260	0	19,400,260	19,800,484	△ 400,224	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	11,122,000		11,122,000	10,165,672	956,328	
本俸	7,700,000		7,700,000	6,959,920	740,080	
社会保険料	1,200,000		1,200,000	1,394,394	△ 194,394	
手当計	1,500,000		1,500,000	1,718,270	△ 218,270	
健康診断費	20,000		20,000	14,175	5,825	
勤労者福祉共済掛金	6,000		6,000	6,750	△ 750	ハマふりしど
退職給付引当金繰入額	73,000		73,000	72,163	837	
その他	623,000		623,000	0	623,000	
事務費	1,750,000		1,750,000	2,746,108	△ 996,108	
旅費	20,000		20,000	11,544	8,456	交通費
消耗品費	55,000		55,000	448,677	△ 393,677	トイレトベーパー・コピー用紙等
会議随費	0		0	0	0	
印刷製本費	10,000		10,000	0	10,000	
通信費	200,000		200,000	200,007	△ 7	電話等・インターネット等
使用料及び賃借料	0		0	0	0	
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
備品購入費	550,000		550,000	151,610	398,390	机、いす等
図書購入費	0		0	15,945	△ 15,945	新聞代
施設賠償責任保険	0		0	11,147	△ 11,147	
職員等研修費	10,000		10,000	7,156	2,844	施設賠償保険
振込手数料	20,000		20,000	0	20,000	
リース料	400,000		400,000	595,030	△ 195,030	駐車場賃借料・レンタルマット
手数料	20,000		20,000	17,280	2,720	駐車場更新手数料・預金口座残高証明書発行手数料
地域協力費	15,000		15,000	19,000	△ 4,000	祝い金等
その他	450,000		450,000	1,268,712	△ 818,712	インフルエンザ予防接種、法人共益費等
事業費	546,000		546,000		329,506	
運営協議会経費	42,000		42,000	27,000	15,000	予算・指定額
指定管理料充当 事業	504,000		504,000	174,494	329,506	
管理費	2,074,000			3,744,590	△ 1,670,590	
建築物・建築設備点検	0		0	0	0	予算・指定額
光熱水費	0		0	1,792,287	0	
電気料金					0	
ガス料金					0	
水道料金					0	
清掃費	800,000		800,000	805,635	△ 5,635	
修繕費	474,000		474,000	474,000	0	予算・指定額
機械整備費	200,000		200,000	206,100	△ 6,100	
設備保全費	600,000		375,000	466,588	△ 115,738	
空調衛生設備保守	250,000		250,000	342,823	△ 92,823	
消防設備保守	25,000		25,000	21,443	3,557	
電気設備保守	55,000		55,000	54,961	39	
害虫駆除清掃保守	45,000		45,000	47,361	△ 2,361	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	0		0	24,150	△ 24,150	
共益費	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
公租公課	889,760	0	889,760		76,507	
事業所税			0		0	
消費税	889,760		889,760	813,253	76,507	
印紙税					0	
その他()					0	
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	0	0	0	0	0	
本部分					0	
当該施設分					0	
ニース対応費					0	
支出合計	16,381,760	0	14,307,760	16,656,370	238,760	
差引	3,018,500	0	5,092,500	3,144,114	△ 638,984	

自主事業費収入	200,000		200,000		200,000	
自主事業費支出	500,000		500,000	174,494	325,506	
自主事業収支	△ 300,000	0	△ 300,000	△ 174,494	△ 125,506	→自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入	0		0		0	駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人収入
管理許可・目的外使用許可支出	0		0		0	使用料(横浜市への支払等)
管理許可・目的外使用許可収支	0		0		0	

平成30年度「横浜市ニッ橋地域ケアプラザ」

収支予算書及び報告書(特別会計)

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料(包括)	23,543,000	△ 378,000	23,165,000	33,327,135	△ 10,162,135	横浜市より
指定管理料(介護予防)	151,000		151,000		151,000	横浜市より
指定管理料(生活支援)	5,789,000		5,789,000		5,789,000	横浜市より
利用料金収入			0	0	0	
指定管理料充当事業(包括)			0	0	0	
指定管理料充当事業(介護予防)			0	0	0	
指定管理料充当事業(生活支援)			0	0	0	
自主事業収入			0	0	0	
雑入	1,683,000	0	1,683,000		1,683,000	
印刷代			0	0	0	
自動販売機手数料			0	0	0	
駐車場利用料金収入			0	0	0	
その他(指定管理充当分)	1,683,000		1,683,000	11,065	1,671,935	看護実習受入費・ゴミルート収入
その他(提案時控除 法人負担分)			0	0	0	
収入合計	31,166,000	△ 378,000	30,788,000	33,327,135	△ 2,539,135	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	27,645,000	0	27,645,000	25,834,027	1,810,973	
本俸			0	0	0	
社会保険料			0	0	0	
手当計			0	0	0	
健康診断費			0	0	0	
勤労者福祉共済掛金			0	0	0	ハマふれんど
退職給付引当金繰入額			0	0	0	
その他			0	0	0	
事務費	1,191,000	0	1,191,000	780,355	410,645	
旅費	100,000		100,000	55,860	44,140	コピー用紙等
消耗品費	41,000		41,000	111,945	△ 70,945	
会議随費	0		0	0	0	
印刷製本費	10,000		10,000	0	10,000	
通信費	260,000		260,000	202,497	57,503	電話・インターネット等
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
横浜市への支払分	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
備品購入費	300,000		300,000	95,904	204,096	電動自転車購入費
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	30,000		30,000	19,324	10,676	
職員等研修費	30,000		30,000	31,241	△ 1,241	
振込手数料	0		0	0	0	
リース料	300,000		300,000	254,934	45,066	
手数料	20,000		20,000	8,650	11,350	
地域協力費	0		0	0	0	
その他	100,000		100,000		100,000	
事業費	1,246,000	0	1,246,000	1,246,000	0	
協力医	630,000		630,000	252,000	378,000	予算:指定額
指定管理料充当自主事業(包括)	156,000		156,000	25,046	130,954	
指定管理料充当事業(介護予防)	151,000		151,000	151,284	△ 284	
指定管理料充当自主事業(生活支援)	309,000		309,000	153,238	155,762	予算:指定額
管理費	819,000	0	819,000	963,535	△ 144,535	
建築物・建築設備点検	0		0	0	0	予算:指定額
光熱水費	200,000	0	200,000	376,376	△ 176,376	
電気料金			0	0	0	
ガス料金			0	0	0	
水道料金			0	0	0	
清掃費	250,000		250,000	214,156	35,844	
修繕費	126,000		126,000	126,000	0	予算:指定額
機械警備費	50,000		50,000	54,785	△ 4,785	
設備保全費	193,000	0	193,000	192,218	782	
空調衛生設備保守	80,000		80,000	91,129	△ 11,129	
消防設備保守	6,000		6,000	5,700	300	
電気設備保守	14,000		14,000	14,609	△ 609	
害虫駆除清掃保守	13,000		13,000	0	13,000	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	80,000		80,000	80,780	△ 780	
共益費	0		0	0	0	
その他	0		0	0	0	
公租公課	0	0	0	0	0	
事業所税			0	0	0	
消費税	0		0	0	0	
印紙税			0	0	0	
その他()			0	0	0	
事務経費(計算根拠を説明欄に記)	0	0	0	0	0	
本部分			0	0	0	
当該施設分			0	0	0	
二一ス対応費			0	0	0	
支出合計	30,901,000	0	30,901,000	28,823,917	2,077,083	
差引	265,000	△ 378,000	△ 113,000	4,503,218	△ 4,616,218	

自主事業費収入	500,000			5,850		
自主事業費支出	500,000			201,044		
自主事業収支	0			△ 195,194		⇒自主事業(指定管理料充当の自主事業)費

管理許可・目的外使用許可収入				0		駐車場利用料金・自動販売機手数料収入等法人
管理許可・目的外使用許可支出				0		使用料(横浜市への支払等)、駐車場設備保全費
管理許可・目的外使用許可収支				0		

平成 30年度 地域ケアプラザ収支予算書及び報告書<介護保険事業分>

施設名: 横浜市ニッ橋地域ケアプラザ

平成30年4月1日～平成31年3月31日
(単位:千円)

	科目	介護予防支援			居宅介護支援			通所介護			予防通所介護・第1号通所介護			
		予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引	予算	決算	差引	
収入	介護保険収入	11070000	5093781	5976219	32557000	28693249	3863751	79973000	72759272	7213728	5234000	4516016	717984	
	その他	5565000	6137823	-572823	0	58	-58	130000	2185278	-2055278	0	518352	-518352	
	介護予防ケアマネジメント費	5565000	6137823	-572823	0	0	0			0			0	
	事業・負担金収入			0	0	0	0	0	0	0		518352	-518352	
	体験利用料			0			0	30000	35050	-5050			0	
	実習生受入研修費			0			0	100000	86408	13592	0	0	0	
	指定管理費追加配布(修繕)			0			0	0	2063820	-2063820			0	
	その他			0	0	58	-58			0				0
	収入合計(A)	16635000	11231604	5403396	32557000	28693307	3863693	80103000	74944550	5158450	5234000	5034368	199632	
	支出	人件費	5489000	5673517	-184517	24354000	21647009	2706991	54158000	50663828	3494172			0
事務費		21000	23818	-2818	125000	63856	61144	252000	398812	-146812			0	
事業費		100000	88905	11095	1085000	828238	256762	22391000	17316899	5074101			0	
管理費		0	0	0	0	0	0		1792267	-1792267			0	
その他		4790000	4937308	-147308	1000000	1177894	-177894	1200000	1201619	-1619	0	0	0	
利用者負担軽減額				0			0		23723	-23723			0	
消費税				0			0			0			0	
介護予防プラン委託料		4790000	4937308	-147308			0			0			0	
共通経費				0	1000000	1177894	-177894	1200000	1177896	22104			0	
その他				0			0			0			0	
支出合計(B)	10400000	10723548	-323548	26564000	23716997	2847003	78001000	71373425	6627575	0	0	0		
収支 (A)-(B)	6235000	508056	5726944	5993000	4976310	1016690	2102000	3571125	-1469125	5234000	5034368	199632		

※ 介護予防プランを他事業者へ委託する場合の取扱は、介護報酬を一旦全額収入に計上した後、他事業者へ委託料として支払う分を支出に計上してください。

※ 上記以外の事業(認知症対応型通所介護等の事業)を実施している場合は、事業ごとに列を増やして同じように記載してください。

平成30年度 自主事業収支報告書

横浜市ニッ橋地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②募集人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
友楽会	高齢者	¥59,160	地活	33,460	25,700	0	14,000	0	45,160
	35名		包括	0	0	0	0	0	0
	100円		介護	0	0	0	0	0	0
			生活	0	0	0	0	0	0
ほしの子☆サロン	未就園児と保護者	¥21,000	地活	21,000	0	0	21,000	0	0
	20組		包括	0	0	0	0	0	0
			介護	0	0	0	0	0	0
			生活	0	0	0	0	0	0
小学生福祉講座	小学生	¥5,000	地活	5,000	0	0	5,000	0	0
	15名		包括	0	0	0	0	0	0
			介護	0	0	0	0	0	0
			生活	0	0	0	0	0	0
さとまつり	どなたでも	¥24,989	地活	20,000	0	0	20,000	0	0
	なし		包括		1,850	0	0	4,989	0
	ヨーヨー釣り1回100円		介護		0	0	0	0	0
			生活	0	0	0	0	0	0
ボランティア交流会	活動中ボランティア	¥9,920	地活	9,920	0	0	5,000	0	4,920
	50名程度		包括	0	0	0	0	0	0
			介護	0	0	0	0	0	0
			生活	0	0	0	0	0	0
音の駅	どなたでも	¥10,000	地活	10,000	0	0	10,000	0	0
	100名程度		包括	0	0	0	0	0	0
			介護	0	0	0	0	0	0
			生活	0	0	0	0	0	0
ふたちゃんカフェ	どなたでも	¥10,000	地活	10,000	0	0	10,000	0	0
	各40名		包括	0	0	0	0	0	0
	100円		介護	0	0	0	0	0	0
			生活	0	0	0	0	0	0
スタイルF	知的精神発達障害の高	¥31,414	地活	24,814	6,600	0	8,000	0	23,414
	15名		包括	0	0	0	0	0	0
	無料から300円		介護	0	0	0	0	0	0
			生活	0	0	0	0	0	0
障害理解のボランティア講座	どなたでも	¥3,000	地活	3,000	0	0	3,000	0	0
	20名		包括	0	0	0	0	0	0
			介護	0	0	0	0	0	0
			生活	0	0	0	0	0	0
初めてのボランティア講座 トーンチャイム講座	どなたでも	¥5,000	地活	5,000	0	0	5,000	0	0
	20名		包括	0	0	0	0	0	0
			介護	0	0	0	0	0	0
			生活	0	0	0	0	0	0
GOGO健康づくり教室	概ね60歳以上の方	¥68,680	地活	0	0	0	0	0	0
	20名		包括	0	0	0	0	0	0
			介護	0	0	0	61,000	3,000	4,680
			生活	0	0	0	0	0	0
宮沢アクティビティ講座	宮沢地区住民	¥34,087	地活	0	0	0	0	0	0
	20名程度		包括	0	0	0	0	0	0
			介護	0	0	0	0	0	0
			生活		4,000		34,087		
いっぴくの会	介護者・介護に興味の ある方 20名	¥8,022	地活	0	0	0	0	0	0
			包括	0	0	0	0	0	8,022
			介護	0	0	0	0	0	0
			生活	0	0	0	0	0	0

平成30年度 自主事業収支報告書

横浜市ニッ橋地域ケアプラザ

事業名	①募集対象者	自主事業決算額							
	②募集人数	総経費	収入			支出			
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	その他	講師謝金	材料費	その他	
ケアマネサロン	ケアマネ	¥0	地活	0	0	0	0	0	0
	20名		包括	0	0	0	0	0	0
			介護	0	0	0	0	0	0
			生活	0	0	0	0	0	0
認知症サポーター養成講座	地域住民	¥0	地活	0	0	0	0	0	0
	20名		包括	0	0	0	0	0	0
			介護	0	0	0	0	0	0
			生活	0	0	0	0	0	0
体力測定会	概ね60歳以上の方	¥16,680	地活	0	0	0	0	0	0
	20名		包括	0	0	0	15,000	0	1,680
			介護	0	0	0	0	0	0
			生活	0	0	0	0	0	0
玄米タンヘル体操講座	概ね60歳以上の方	¥25,680	地活	0	0	0	0	0	0
	20名		包括	0	0	0	24,000	0	1,680
			介護	0	0	0	0	0	0
			生活	0	0	0	0	0	0
フットケア入門講座	概ね60歳以上の方	¥29,120	地活	0	0	0	0	0	0
	10名		包括	0	0	0	0	0	0
			介護	0	0	0	28,000	0	1,120
			生活	0	0	0	0	0	0
終活セミナー	地域住民	¥3,611	地活	0	0	0	0	0	0
	20名		包括	0	0	0	0	0	3,611
			介護	0	0	0	0	0	0
			生活	0	0	0	0	0	0
地域ケア会議	地域住民、介護保険事業者等	¥9,274	地活	0	0	0	0	0	0
	30名程度		包括	0	0	0	0	0	9,274
			介護	0	0	0	0	0	0
			生活	0	0	0	0	0	0
エンディングノート書き方講座	地域住民	¥1,000	地活	0	0	0	0	0	0
	50名程度		包括	0	0	0	0	0	1,000
			介護	0	0	0	0	0	0
			生活	0	0	0	0	0	0

事業ごとに別紙に記載してください。

平成30年度 自主事業報告書

横浜市二ツ橋地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ほしの子☆サロン	<p><目的> 近年の核家族化や都市化による地域社会の人間関係の希薄化を受けて、不安や悩みを抱えながら、地域で孤立しがちな乳幼児の子育て世代を対象に、居場所・交流の場として支援、友達づくりや相談できる場の提供。</p> <p><内容> 子育てのヒントになるふれあい遊びなどを通し、子供とのかかわりができるよう、毎月違うイベントを開催。 また、毎回自由遊びの時間を提供し、母親同士のコミュニケーションを図りました。</p>	毎月最終金曜日 実施 (8月、12月を除く) 10回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
地域の高齢者ミニサロン「友楽会」	<p><目的> 近隣住民の高齢者を対象に、身近な場所へ通うことで、孤立を防ぎ、生きがい、心身機能の維持向上を目指す。</p> <p><内容> 自己紹介、座ってできる体操（はまちゃん体操座位編） 大人の読み語り、毎月のイベント（10:30～11:30の1時間：体操・音楽鑑賞、保育園との交流など）お茶の時間（参加者同士、ボランティアとの交流）</p>	毎月第1木曜日 12回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
からだまるごと健康フェア	<p>【瀬谷区内地域ケアプラザ共催】</p> <p><目的> 1 瀬谷区民の健康づくり、介護予防の啓発と思いやりの気持ちを育む。 2 身近な場所での体験を通して健康について考えてもらう。</p> <p><内容> 1 コグニラダーと脳トレ体験コーナーの実施。 2 ケアプラザパネル展示、チラシの配布。</p>	6月・1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
オトナ磨き講座	<p><目的> 1 地域ケアプラザに来所する機会の少ない世代（20代から70代）の人が地域の担い手や地域活動に積極的に参加する人と接点をもつ。 2 地域ケアプラザを通して地域活動や行事を身近に感じてもらう。</p> <p><内容> フラワーアレンジメントを実施。</p>	4月、10月・3回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
小学生福祉講座	<p><目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 小学生に向けて福祉について興味関心をもってもらう。 視覚障害の理解啓発。 <p><内容></p> 視覚障害体験、点字体験、視覚障害の当事者との交流。	7月・2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
さとまつり	<p><目的></p> 障害のある人もない人も共に参加できる祭りにおいて地域支援、障害者支援。	7月・1回
	<p><内容></p> ヨーヨー釣り、盲導犬のデモンストレーション	

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティア交流会	<p><目的></p> 地域ケアプラザ登録ボランティアの意識向上と交流。	6月・1回
	<p><内容></p> 珈琲の美味しい淹れ方とボランティア同士の交流。	

事業名	目的・内容	実施時期・回数
初めてのボランティア講座	<p><目的></p> 新しいボランティアの発掘、既存ボランティアに対する新しい活動の紹介、コーディネート。福祉への理解啓発。	11月・1月 2回
	<p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 障害者支援のための障害理解（11月） トーンチャイムを通じた実習（1月） 	

事業名	目的・内容	実施時期・回数
音の駅	<p>【瀬谷区内地域ケアプラザ共催】</p> <p><目的></p> どなたでも参加できる地域の身近な場所で、地域ケアプラザの周知と、地域の方の交流を図る。	10月・1回 (二ツ橋地域ケアプラザ実施分)
	<p><内容></p> 区政50周年イベントとして、5か所の地域ケアプラザがそれぞれの地域の会場でコンサートやスタンプラリーを実施することで地域を超えて、瀬谷区全体での交流を図りました。	

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ふたちゃん カフェコンサート	<p><目的></p> <p>1 多世代交流と地域ケアプラザの周知。 2 身近な場所での外出機会の提供ならびにお茶の時間を通じた交流。</p> <p><内容></p> <p>コンサート、地域ケアプラザの周知、脳トレや体操の紹介、お茶の時間に参加者同士の交流。</p>	6月・12月 2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ちびっこルーム	<p><目的></p> <p>夏休みに参加できる未就園児以外の小学生や中高生が子育て世代の親子と交流し、育児を学び、年少者への思いやりを学ぶ。</p> <p><内容></p> <p>水遊び体験の予定だったが、雨天のため室内でできる水遊びやコーナー遊びを実施。</p>	8月・1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
瀬谷区合同育児講座	<p>【瀬谷区内の保育園との共催】</p> <p><目的></p> <p>身近な施設で子育てについてのヒントやアドバイスを受けられる機会を提供し、子育て中の孤立を防ぐ。</p> <p><内容></p> <p>手遊び、音楽遊び、体操、パラバルーン、絵本、相談。</p>	1月・1回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
せやカローリング交流会	<p>【瀬谷スポーツセンター・区内地域ケアプラザ共催】</p> <p><目的></p> <p>瀬谷区内の高齢者の健康とスポーツ交流</p> <p><内容></p> <p>カローリング交流会の実施。3人1組のチームで対戦。初体験の体験コーナーも設置。</p>	3月・1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
男のボランティアとなり組	<p><目的></p> <p>男性を対象にしたボランティアグループを育成し、高齢者世帯に対する支援団体への後方支援。</p> <p><内容></p> <p>実績報告書作成。依頼者受付、コーディネート。 定例会で実施日、参加メンバー決定。 利用者へ実施日伝達。</p>	毎月第1金曜日 計12回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
障害者余暇支援「スタイルF」	<p><目的></p> <p>1 知的障害、精神障害など見た目ではわかりにくい障害をもつ方が、高校を卒業してからも住みよい生活をしていくために、地域の方と関係性を築くきっかけの場の提供。</p> <p>2 卒業後からは新しい場所に集うきっかけがつかみにくいため、学校や関連団体と連携し、高校生のうちからの周知を図る。</p> <p><内容></p> <p>夏祭り、スポーツ大会、クリスマス会、ダンス、カラオケ</p>	8月、10月、12月、2月 3月 計5回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
来て！見て！ 知って！遊ぼう！	<p>【瀬谷区内地域ケアプラザ共催】</p> <p><目的></p> <p>瀬谷区内各地域ケアプラザで実施している子育て事業や活動団体など、地域の活動紹介。</p> <p><内容></p> <p>地域ケアプラザの周知。パネル展示や各地域ケアプラザエリアの活動団体紹介。</p>	11月・1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
貸館利用団体懇親会	<p><目的></p> <p>1 地域ケアプラザの貸館利用団体へ貸館利用の説明と質問事項の回答。</p> <p>2 貸館利用団体の悩み事の相談を受けるとともに各団体の交流を図り、新しい福祉活動につながるきっかけづくり。</p> <p>3 地域ケアプラザ職員との交流機会の提供。</p> <p><内容></p> <p>貸館団体の発表。交流会。</p>	3月・1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ボランティア知恵袋講座	<p><目的></p> <p>地域で活動しているグループ（二ツ橋公園体操PJ、虹の架け橋など）のボランティアを対象としたスキルアップ。</p> <p><内容></p> <p>脳トレ、レクリエーションの習得。</p>	6月・11月 2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
二ツ橋公園元気会	<p><目的></p> <p>虚弱な方も集うことができ、地域で健康づくりに取り組める場への後方支援。</p> <p>※二ツ橋公園元気会サポーター主催</p> <p><内容></p> <p>毎週金曜日9:30～10:00 30分程度ラジオ体操第1・第2や富士山体操、口腔体操を行う。</p>	毎週金曜（第5週除く）/37回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
宮沢地区保健活動推進員出前講座	<p>【宮沢地区保健活動推進員と共催】</p> <p><目的> 宮沢地区住民への健康・介護予防等の周知と普及啓発。</p> <p><内容> 食中毒、熱中症の注意喚起、介護保険制度、認知症予防</p>	8月・11月・2月 3回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
GOGO健康づくり教室	<p><目的> 地域住民に介護予防の普及・啓発等</p> <p><内容> 口腔ケア、ロコモ予防、栄養の重要性を理解、介護予防のセルフケアを推進する。</p>	8月・9月・11月・12月/6回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
認知症サポーター養成講座	<p><目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 認知症になっても安心して生活できるやさしい地域づくり。 2 認知症に対する普及・啓発 <p><内容> 三ツ境地区・宮沢地区のキャラバンメイトが主体となり、認知症サポーター養成講座の開催。出前講座として実施。</p>	不定期開催・8回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
みやざわで始まるアクティブライフ講座	<p><目的> 第3期地域福祉保健計画における宮沢地区の居場所づくり。</p> <p><内容> コグニサイズ、クラフト制作等を通じた仲間づくりと地域活動を進めるにあたっての支援。</p>	11月・12月/5回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
体力測定会	<p><目的> 高齢者自身が自らの体力を把握し、身体状況に応じた介護予防を実践できることを目指す。</p> <p><内容> 開眼片足立ち、50m歩行、全身反応、握力測定等。</p>	10月/2回

平成30年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容	実施時期・回数
玄米ダンベル体操講座	<p><目的> 高齢者を中心とする地域住民がロコモ予防等、介護予防における重要性を理解し、自ら継続的に実践できるようになることを目指す。</p> <p><内容> 布に玄米を詰めたダンベルを用いた筋力トレーニング。</p>	1月～3月／3回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
フットケア入門講座	<p><目的> 高齢者を中心とする地域住民がフットケアの重要性を理解し、自ら継続的に実施できるようになることを目指す。</p> <p><内容> 自ら行えるフットケアの指導等</p>	2月・3月 2回